

独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852)21-6131 FAX (0852)27-1019
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



足立美術館の庭園
 日本庭園の美しさでも知られる足立美術館。5万坪の広大な庭園は、四季折々にさまざまな表情を見せてくれます。また、米国の日本庭園専門誌によるランキングで「8年連続日本一」に選ばれています。

もくじ

医療教育研修室から ー今、やるべきことー	2	永年勤続表彰	8
災害派遣・宮城病院	3～4	天理教による「ひのきしん」奉仕活動	8
第20回中国地区重症心身障害研修会開催	5	「嵐の中の決戦」	9
看護学生呼吸器体験学習を開催	6	しじみ会(四月桜号 五月鯉のぼり号 六月紫陽花号)	9
看護の日を終えて	6～7	地域医療連携室だより 第5号	10～11
2階病棟「ふれあいの日」開催	7	外来診療表	12

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。

医療教育研修室から

—今、やるべきこと—

呼吸器科医長・医療教育研修室長 門 脇 徹

2011年3月11日。誰にとっても忘れることができない日になることと思います。未曾有の大震災が発生し、大津波とともに東日本、そして日本人の心にも大きな爪痕を残してきました。亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りするとともに、被害を受け今も苦しんでいる方々の一刻も早い体調の回復と復興をお祈りいたします。更に、御自身や御家族の被災にもかかわらず、被災された方々の診療に昼夜を問わず御尽力されている医療関係者すべての方々に心より敬意を表します。

あの悲しい光景を見て心に去来する思い…。

『我々に今何ができるのか？』

いろんなところでこのフレーズを見聞きしたことと思います。それぞれの立場でいろんな思いが浮かんだことと思います。悲しいですが、しっかりと現実を受け止めて日常を精いっぱい生きていくことこそ大事なことだと感じた次第です。

さて、“あれから”数カ月が過ぎました。その間、院内教育を担当する者として『今、何ができるのか？』と自らに問いなおしておりました。医療教育研修室は主に時間外の講義・研修、そして院外への情報発信を担当しています。今年度は前号の『穴道湖』にも記したようにワークショップ形式の講義を増やしたり、『呼吸療法認定士養成講座』を開講したりと新しい試みを行っております。改善をしながら前進していく、というスタイルはこのまま継続したいと思っておりますが、当院の教育をよりよくするためには、実はクリアしなくてはいけない問題があると思っております。

教育を担当する組織の問題です。教育の発信元は1つでなくてはなりません。現時点では出所が少なくとも2つ存在しています。当研修室と看護部です。看護部は主に時間内にカリキュラムに沿った教育を行っております。これはこれで継続しないといけません。そして当研修室の教育の対象となるのは職員の人数分布から言っても主に看護師ということになりますので、研修のターゲットが自ずとそうなります。となると看護部とのタイアップは必要不可欠です。実際、昨年度からは研修内容に重複がないように協力して教育を行っております。改善してきていますが、まだ研修内容に重複や内容の“ぶれ”が認められます。重複やぶれがあると研修を受ける側は混乱する可能性があります。この点で“教育の発信元を一本化”する必要がある、と考えるのです。当研修室メンバーは全て兼任で教育

の仕事を行っています。今回立ち上げから大きな力を発揮してくれていたメンバーが異動により2人も抜けてしまうことになりました。これは正直大きな痛手でした。メンバーが変わっても教育のレベルを下げることなく、発展していくことができる組織にしないとけないと痛感しました。

どのような組織にしたらいいのか？それを考え、答えを出していくことがまさに『今、やるべきこと』だと考えております。教育にかかわる部門を全て束ねて行くような大きな組織にしていけるのか？それとも…。考えは尽きません。

でも実は、教育というのは“今日育（今日、育てるという意味）”と言ってもいいのではないかと考えています。逆説的ですが、特定の部門だけがやることではありません。1年目の職員は2年目の職員の背中を見ています。5年目の職員は10年目の背中を見ています。本年1月号の『穴道湖』にも書きましたが、先輩が後輩に憧れを抱かすことができるか（＝“憧れの伝染”ができるか）、背中で語るができるか？これって教育の根源だと思うのです。忙しいと思います。他にもやることはあるかもしれませんが、しかしながら、各部門、日々の仕事の場面において、教育しないといけない出来事は発生しています。そして若い人は、教えられるのを待ってはいけません。教えてもらうのが当たり前という風に思っている人はいないと思いますが、自ら学ぶ姿勢をしっかりと持ってほしいと思います。英国の医師であり作家であったSamuel Smilesはこう述べています。

“Heaven helps those who help themselves.”＝天は自ら助くる者を助く、と。

各部門としっかりと協議を重ねながら病院にとって最良の答えを探していきたいと思っております。メンバーが変わっても、時間が流れていっても…

『スタッフ教育に関してコーディネーターであり、かつ知識・技術向上のためのプロデューサーである』

このコンセプトをより発揮できる教育の組織作りをしていかなければならない、それが医療教育研修室長である私が『今、やるべきこと』なのです。御意見あれば是非頂戴したく存じます。よろしく願いいたします！

P.S. みなさんにとって『今、やるべきこと』は何でしょうか？

災害派遣・宮城病院

災害応援を通じて

4階病棟看護師 勝田 聖子

私は東日本大震災の被災地である国立病院機構宮城病院へ、4月2日～8日、災害支援看護師として応援に行ってきました。現地へ向かっている道中、宮城県に入ると何台もの自衛隊の車両とすれ違い、避難所と思われる所も目にし、それまでテレビで見ていた世界を現実と感じはじめました。

宮城病院は宮城県の南部の沿岸地域にあり、病院の前にある道路の手前まで津波の痕跡がありました。実際に津波に流された現場は、病院から歩いて数分の場所でした。そこには家や車などあらゆる物が流されて瓦礫と化した世界が一面に広がっており、テレビで報道されているそのものでした。震災前は病院から海は見えなかったそうですが、津波によって堤防が壊れ、町が流され、今では津波に流された痕と海が見え、被害の広さをまざまざと感じました。

私達が行った頃は、電気、上下水道、ガスが復旧しつつありましたが、それまでは大変だったと話を伺いました。病棟はほぼ通常業務に戻っているようでしたが、震災直後1週間以上病棟にスタッフみんなで寝泊まりし、炊き出しをしたりして看護を続けていたそうです。なんとか材料を確保し3食病院食を提供したり、停電のため人力で4階まで物を運んだり、たくさんの苦労があったそうです。まだ物資も十分でなく、節約しながら医療をしている状況でした。中には家族が津波で亡くなられた方や、家が流され、現在は避難所から仕事に通っている看護師もおられました。患者だけでなく、医療者も被災者であり、誰もが助け合いながら生活していると感じました。本当はとても苦しい環境であるにもかかわらず、笑顔で明るく働いている姿に私が力をもらった気がします。

業務内容としては、主に患者さんのケアや入浴介助などをさせて頂きました。勝手に分からず、思うように役立っていなかったと思いますが、それでも病棟スタッフの皆さんが笑顔で迎え入れてくださり、「助かってます」「来てもらえただけでも嬉しいです。みんな繋がっているんだなと思います」という言葉を頂き、

嬉しく思いました。

現地では、毎日数回の余震が続いていました。初日の病棟にいる時に震度4の余震があり、病棟職員の方々は余震への対処も早く、冷静に行動しておられました。

最終日の夜、震度6の余震を体験しました。それまで約1週間滞在して、毎日当たり前のように起こる余震に慣れてきて、「今のは震度2かな」なんて会話をしたりするくらいでした。しかし、このときは恐怖を感じました。停電がおこり、外では津波警報のサイレンが鳴り、今まで経験したことのない状況でした。幸い大事には至りませんでした。1週間を通して病院職員の冷静な対応を見て、松江で同じ状況が起きたら、自分はきちんと行動できるのか不安に思いました。

松江に帰ってからも余震の感覚が抜けず、トラックが通る時などの地響きや少しの揺れを感じると、ゾクゾクと体が反応していました。この感覚が抜けるのに1週間以上かかり、実は今でもたまにドキッとすることがあります。現地の方々は今でも余震の続いている中で生活していると思うと精神的苦痛は計り知れないと思います。

今回災害応援に行き震災の恐ろしさを肌で感じたと共に、自分自身の災害に対する考えの甘さを痛感しました。貴重な体験をさせて頂き、宮城病院で関わった方々にとても感謝しています。この経験を活かしていくと同時に、今後も震災復興に対し自分に出来ることをしていきたいと思っています。

宮城病院災害派遣

3階病棟看護師 門脇 由子

私が派遣されたのは4月の上旬で、震災から1ヶ月が経とうとしている時期でした。宮城病院で助っ人として実施したことは、本当に日常生活のケアで、オムツ交換や食事介助、口腔ケア、爪切り、手浴足浴、入浴介助、患者さんとの会話などです。

こんなことで本当に役に立っているのだろうか疑問に思いながら働いていましたが、病院のスタッフからは、「私たちは入院や退院の整理、日々の処置に手いっぱい基本的なケアをすることが出来ないし、患

者さんの話は聴いてあげられない状況なので助かりません。」「災害派遣チームが来ることで、他のスタッフを1人でも休ませてあげられている。」「こうやって全国から看護師が派遣に来ることで、『繋がっている』と感じられるので元気がでます。」などの声が聞かれました。

震災のあった直後は、病院すべてのエレベーターが停止しているため、1階の患者さんを病院スタッフ全員で2階へ避難させたり、食事もスタッフ全員が階段に並んで手渡しリレーで各階に運んだそうです。

病院では物品や水・電気が不足しているため、マスクは1日1枚、吸引チューブは1日1本、入浴は1週間に1回、節電は必ず!!といったように最低限のコストで看護をしていました。新しく入院してくる患者さんも避難所からの方が多く、退院しても避難所に戻る方もおられました。また、避難所から通ってる看護師もあり、「災害派遣のスタッフがきてくれるから、休みがもらえて家の荷物を探しに行けるから助かっている。」と言う悲惨な状況を笑って話してくれる看護師もおられました。

余震は震度1～3までは頻回にあり、常に揺れている感じでした。初日に震度4と最終日に震度6弱を経験しました。震度4の時には4階の病棟にいたのですが、かなりの揺れでした。揺れが収まると、すぐに看

護師が各病室を回り異常がないか声かけを行っていました。ナースステーションからは「落ち着いて!!落ち着いて!!」という声も聞かれていました。震度6の時は、夜中だったため看護師の寮にいましたが、地震が収まったと思ったらすぐに停電になり、外に出ると、寮に住んでいる看護師が一斉に外に出てきて、「大丈夫ですか?取りあえず、自分の病棟に行ってください。」と言う声かけがありました。私たちが急いで病院に行くと、すでに沢山の看護師が来ており自分の病棟に向かっていました。上層部では津波に備えて1階の患者さんを2階にあげるか検討もしてまいりました。病院のスタッフは地震に慣れており、すぐに動けるようになっていました。また、病院には看護部長や数人のスタッフが緊急時に備えて病院での寝泊りをしてもらえるそうです。

各病棟のナースステーションには避難経路や消火器やハシゴ、非常ベルが何処にあるのか分かりやすく貼り出されてあり緊急時に備えてありました。

災害は予測が不可能なため、災害に備えた計画も必要で、当院も自力での脱出が困難な患者さんが多いため、スタッフがどのように行動して避難するのか、患者さんをどのように避難させるのか、避難時には何を持ち出すのか事前に学習し、実際に起こった時に動けるようになることが必要だと思いました。



瓦礫の中に電線が通り電気の復旧が早くできた



病院4階からみえる津波の跡地



瓦礫撤去が進む中見つけた貴重品類



流された家や車

第20回中国地区重症心身障害研修会開催

療育指導室長 吉 岡 恭 一



シンポジスト

平成4年から、中国地区の重症心身障害児（者）病棟をもつ国立療養所（当時）の有志で始まった「中国地区重症心身障害研修会」が、平成23年5月21日（土）松江医療センターが担当施設として、松江東急インを会場に開催されました。191名という近年にない多数の参加者のもと盛大な研修会となりました。

今回の研修会のテーマ「重症心身障害児（者）の在宅支援の現状と国立病院機構の役割」が決定したのは、ちょうど1年前の鳥取医療センターが担当施設として開催された第19回研修会の頃でした。以後1年間にわたり、徳島院長をトップとして、また齋田小児科医長を中心に院内実行委員会を立ち上げ、企画立案し当日を迎えることができました。

研修会の開会式では、今回の会長である松江医療センターの徳島院長より開会の挨拶から始まり、来賓の中国四国ブロック事務所後藤隆文医療課長よりご挨拶いただきました。

特別講演として、国立病院機構香川小児病院長で国立重症心身障害協議会会長である中川義信先生より、「香川県における在宅医療の現状と問題点」と題したご講演を頂きました。香川小児病院は、小児を中心とした救急救命センター・総合周産期母子医療センター・重症心身障害児（者）病棟・重症心身障害児（者）通園事業など、四国における小児の総合医療センターとして重要な役割を担う病院です。また善通寺病院との統合に合わせ、その機能をより充実させる計画で、地域との連携が不可欠であることをご紹介いただきました。

その後のシンポジウムでは、齋田小児科医長と福井看護師長の座長により、各専門職種やご家族、行政機関がそれぞれシンポジストとして話題提供をしていただきました。医師、看護、リハビリ、栄養、療育、そ

れぞれの立場からの話題提供に続き、家族の立場から重症心身障害児（者）を守る会島根県支部芦矢京子事務局長、行政の立場から島根県健康福祉部障がい福祉課田邊和佳子療育支援グループリーダーにご発表頂きました。特に、ご家族の立場で発表していただいた芦矢さんからは、国立病院機構に期待することとして、「在宅重症児（者）の命と家族の生活を守ること」が大きな期待であり、重症児（者）の医療や療育、リハビリなど重症児（者）に対する専門性を生かして、重症児（者）を受け入れていない病院や施設との連携を図り、在宅重症児（者）がどこでも受診や施設利用ができるような連携システムの構築。医療依存度の高い重症児（者）を積極的に受け入れること。家族のレスパイト利用や重症児（者）の緊急時の入院の受け入れ、などの期待についてご発表頂きました。ご家族からの生の声には、多くの参加者が感銘を受け、閉会后回収したアンケートで、多数の意見が寄せられました。

最後の閉会式では、山口宇部医療センター上岡博院長より次期開催施設を代表してご挨拶していただきました。

重症心身障害児（者）への支援には、多方面の領域からの連携が不可欠であり、究極のチーム医療であると思います。今島根県でも、当院の齋田小児科医長の発案による、「医療従事者ネットワーク懇談会」が、島根県重症心身障害児（者）を守る会の協力により動き始めています。休日にもかかわらず医療関係者や事業所、行政機関などの関係者が多数集まり熱く議論し合うこの懇談会は、ご苦勞の多い在宅の重症心身障害児（者）が安心して生活するために必要な“連携”を考える懇談会です。国立病院機構の病院が核となり、入院はもとより在宅患者へも支援の輪を広げていこうという試みは、今動き始めています。



会場風景

看護学生呼吸器体験学習を開催

教育担当看護師長 杉谷 美奈子



看護学生呼吸器体験学習を3月25日に行いました。看護学生が、当院専門である呼吸器について楽しく学習し、看護師確保の一助になる事を目的にして開始し今年で3回目になります。

今年度は、38名の参加者がありました。年々参加者が増えてきています。人数だけでなく岡山医療センター附属看護学校、国立療養所長島愛生園附属看護学校などの県外からの島根県出身者の参加があり、機構病院の学校からの参加者も増えました。看護学校の先生からは、就職も視野に入れていているという情報もありました。

学習会は、呼吸器についての講義・呼吸理学療法・人工呼吸器(鼻マスク)体験・看護師が行う呼吸リラクゼーション等の呼吸器についての学習だけでなく、病院食の試食・新病棟の見学も体験していただきました。今年度は、午前中から行い病棟見学の時間も企画しました。きれいな病棟は心動かされるものがあったようです。体験をお世話

になったそれぞれの部署では、学生さんにわかりやすいように、また楽しく学習できるように工夫してくれました。学習会をとおして当院のチーム医療を見て感じていただきました。参加の学生さんは、楽しそうにでも真剣に学習していました。

アンケートの内容から、

- ・誘われて来たけど来てよかった。
- ・とっても貴重な体験だった。
- ・患者様の苦痛が体験できたので今後の看護に生かしたい。
- ・職員が楽しそうに仲良くしている様子が良かった。
- ・リラックスできる雰囲気の中で安心して過ごせた。
- ・ALS・筋ジスについても知りたい。

等沢山うれしい意見をいただきました。

当院の奨学金を受けている学生さんも、当院の和やかな雰囲気を感じて安心していただいています。

今後も看護学生呼吸器体験学習をとおして当院の専門性を知っていただき、たくさんの人材確保につなげることができればと思っています。



看護の日を終えて

4階病棟 看護師 塩治 尚子



平成23年5月12日、スーパーみしまや上乃木店で今年も、『看護の心をみんなの心に』というスローガンのもとに看護フェアを開かせていただきました。内容としては、医師による健康相談、栄養士による栄養相談、看護師による血圧測定・骨密度測定・ハーブピネガー体験がありました。あまり天気には恵まれませんでした。約2時間という短い時間に、76名という多くの方々に足を運んでいただきました。初めてきてくれた方もいれば、「今年も楽しみにしよかったよ。」と

2階病棟「ふれあいの日」開催

療育指導室 保育士 橋本 由美子



6月5日(日)、2階病棟「ふれあいの日」を開催しました。今回のテーマは音楽と踊りを中心とした「リズム・ソング・ダンス」です。

まず、デイルームに出られない方々のお部屋に、療育指導室スタッフ6名が訪室し、「英語で遊ぼう」という番組でお馴染みの曲「Head, shoulders, knees and toes」と触れ合い体操「手と手と手と」で歌遊びを行いました。突然、たくさんの方が訪室したので、ややびっくり顔のみなさん。しかし、楽しい雰囲気ですっかりとけこんでおられるようでした。また、しっかりとカメラ目線で対応してくださっている方もおられました。

その後、会場をデイルームに。前半は日々、患者さんがどんな活動をして過ごされている

か御家族や病棟の皆さんに知ってもらいたいと思い、療育紹介を計画しました。プロジェクターから映し出される映像を熱心に見て頂きました。手作り楽器制作にも挑戦。一人ひとり違う楽器を用いて「世界に一つだけの花」を演奏しました。後半はいよいよメインイベント！親子触れ合いタイムです。歌のお姉さんに扮した保育士、その後から歌の師匠ということで、療育指導室長が登場し、会場を盛り上げます。ご家族にも急なお願いをし、快くステージに出て踊って下さった方もあり、皆さん大喜び。又、お父さん・お母さんにタッピング（体に触れる）をしてもらうととても嬉しそうな表情をされていました。最後は患者さんを交えて参加者全員が一つの輪になり終了しました。

これからも、皆さんが楽しんで元気が出るような行事を考えていきたいと思いました。参加して下さいました皆さんありがとうございました。



言ってくださる方もおられ、私も心温まる思いがしました。今回初めて看護フェアに参加しましたが、地域には健康意識の高い方がこんなに多くいらっしゃるのかと驚きました。また、病院では病気を持った方の治療をお手伝いさせていただいていますが、この看護フェアでは健康な方へ健康を維持できるよう関わらせていただくことができました。最後に、看護フェアは病院と地域のつながりを持てるイベントであり、今後も続けていきたいと感じました。



永年勤続表彰

庶務班長 小野敏幸

4月13日（水）に国立病院機構理事長による永年勤続表彰の伝達式が当院会議室において行われ、院長から表彰状と記念品が一人ひとりに授与されました。伝達式の後、院長から長年の勤務に対するねぎらいの挨拶がありました。表彰された方々は、次のとおりです。

【勤続30年表彰】

看護師長 矢倉みどり

【勤続20年表彰】

病理主任 福田 智	副看護師長 角 佳代子
副看護師長 柳浦 京子	副看護師長 池田 雅子
看護師 増田 英子	看護師 松本恵美子
看護師 小川 規子	看護師 安食 裕子



天理教による「ひのきしん」奉仕活動

庶務班長 小野敏幸

今年も4月29日に毎年の恒例行事となっている天理教の奉仕活動「ひのきしん」で草刈りをしていただきました。前日までは天候不良でしたが、どういふ訳か「ひのきしん」は例年晴天となり、作業がスムーズに進み綺麗になりました。参加いただきました約400名の天理教の皆さん、ありがとうございました。

ところで「ひのきしん」に漢字を当てると「日の寄進」となることから、一日の働きをお供えする（時間のお供え）という解釈があるそうです。



「嵐の中の決戦」

松江コンビック 主将 中尾 健人 (2階病棟)

第7回中国ブロック電動車椅子サッカー交流大会・「松江すさのお大会」が、台風が通過する最中5月29日に松江市の玉湯体育館にて開催されました。

試合を振り返ると、第1試合の岡山ヴィゴレとの試合では、相手の作戦に戸惑う部分が多く自分たちの思うようなプレーができず2-0で敗退しました。第2試合のアイアンボニーズFC岡山との試合では、相手のコートにボールを返してもすぐに自陣のコートに攻め込まれ続け苦しい展開が多く4-0で敗退しました。第3試合の広島マイイツとの試合では初対戦という事もあり、相手の様子が分からない中でスタートでした。相手の実力、技術の高さなどに圧倒され健闘むなしく6-0大差で完敗しました。

松江での開催という事もあり、松江医療センターの職員のみなさんをはじめ多くの方々が応援に来て下さっていてとても嬉しく思いました。

また、今回は大会の主管という大きな役割があり、運営や各所への手配など沢山の仕事があり大変でしたが選手や家族で一丸となり、取り組むことができました。

怪我や事故など何事もなく大会を終える事ができ良かったと思います。

最後になりましたが今回開催するに当たりご協力して頂いた多くの皆様ありがとうございました。これからも練習を積み重ね頑張っていきますので応援よろしくお願いします。



しじみ会 (四月桜号 五月鯉のぼり号 六月紫陽花号)

リハビリテーション科 作業療法士 三井 貴史

・菜の花を 髪に飾りて すまし顔
となりの住人

・古友の 便りなくとも 新茶着く
京の静さん

・夜桜や 昔の夢が 浮かぶ酒
やどかりさん

・新天地 心和ます ハナミズキ
白イルカさん

・父の日は 息子がいつも 傍にいる
永島さん

・小川から 春の歌声 聞こえます
コスモスさん

・大臣を 増やすばかりで 策もなし
[K]さん

・かがり火に 能面はえて 春の宵
美恵さん

地域医療連携室だより 第5号

暑中お見舞い申し上げます 2011年 7月



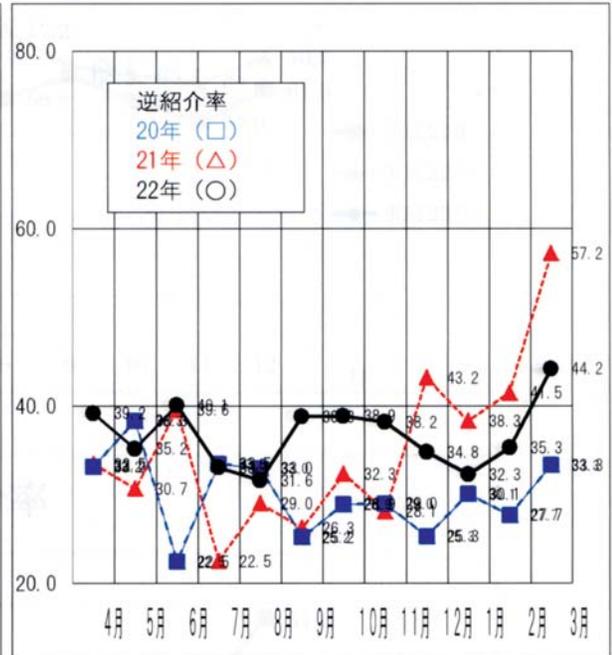
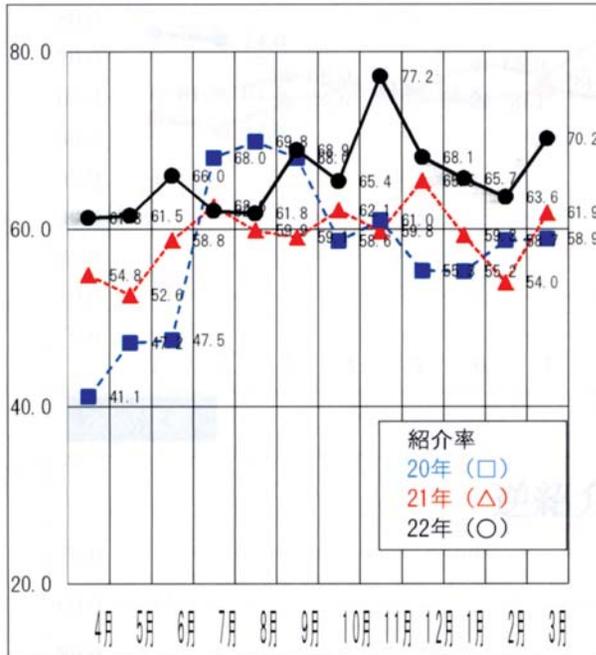
1. 平成22年度 紹介率・逆紹介率について

紹介率

平均紹介率 66.0%

逆紹介率

平均逆紹介率 36.8%



5. 平成22年度退院支援データ

退院先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	32人	33人	39人	37人	32人	27人	32人	42人	34人	50人	50人	51人
在宅	7人	9人	5人	8人	6人	6人	5人	6人	3人	6人	6人	9人
施設	0	2人	2人	2人	0	3人	0	2人	1人	2人	3人	0
病院	3人	3人	5人	2人	2人	3人	5人	3人	2人	3人	3人	3人

(お知らせ) 当院主催の研修会・交流会のご案内

- 7月 9日 (土) 第6回呼吸器市民公開講演会
- 9月17日 (土) 島根医療マネジメント学会
- 10月15日 (土) 健康フェスタ
- 10月20日 (木) 第5回地域医療連携交流会
- 12月 3日 (土) 第2回呼吸器セミナー

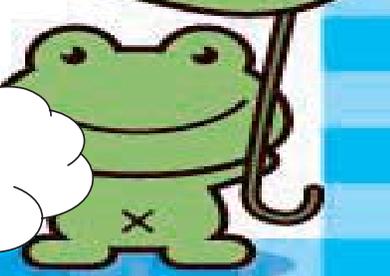
詳細は当院ホームページをご覧ください
<http://www.matsue-medicalcenter.jp/>

テーマ

「高めよう
地域連携と役割分担」

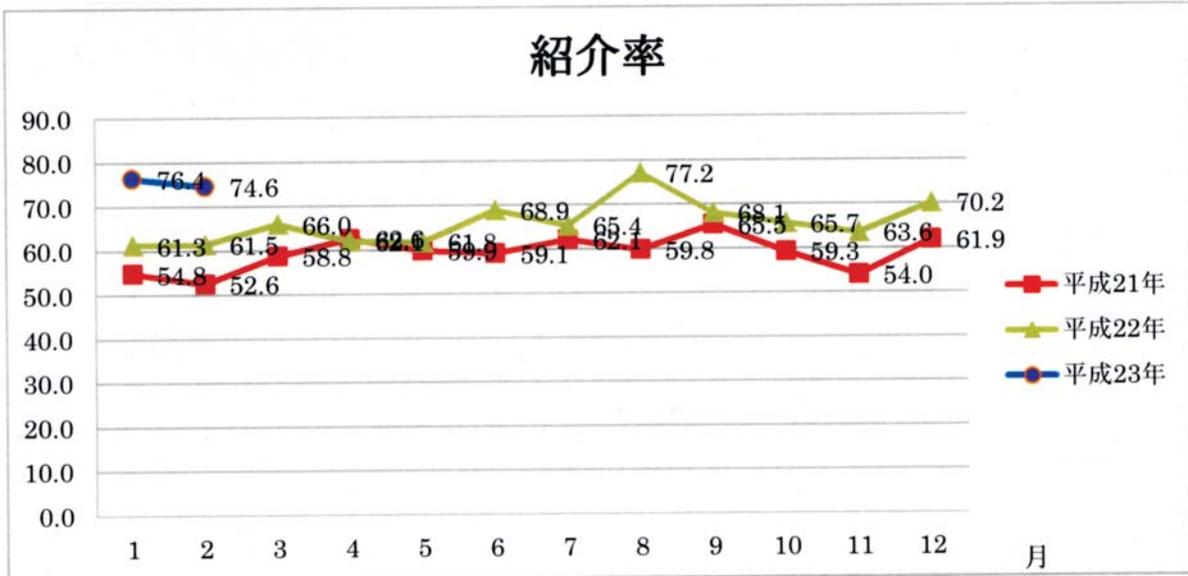
テーマ

「誤嚥性肺炎対策の
キーポイント」

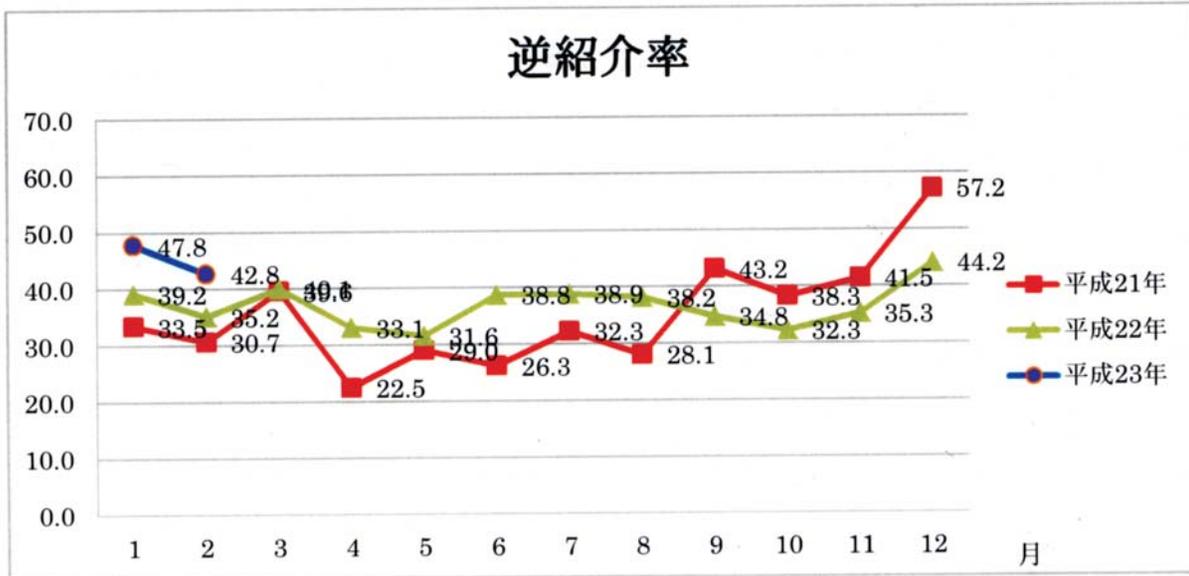


4. 今年度の紹介率・逆紹介率の推移

紹介率



逆紹介率



5. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院先	退院支援患者	36人	39人										
	在宅	5人	6人										
	施設	3人	0										
	病院	5人	3人										

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成23年4月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子	【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般
	若林	若林			木村	木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範	
循環器内科	石川		石川			【循環器内科】 石川 成範	循環器内科一般
消化器内科	三原					【消化器内科】 石原 孝之 三原 修	消化器内科一般 消化器内科一般
神経内科		下山			足立芳樹	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科	徳島		目次			【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 足立 洋心	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	足立洋心						
小児科 発達専門外来	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	齋田	久保田	久保田	齋田	久保田		
予防接種		(予約)				【麻酔科】 足立 洋心	麻酔科・呼吸器外科・一般外科
特 殊 外 来	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		【麻酔科】 足立 洋心
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)		
息切れ外来		呼吸器内科 担当医(予約)					
喘息アレルギー外来	若林 (予約)					池田 (予約)	
咳嗽外来	若林 (予約)					池田 (予約)	
禁煙外来					毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		
アスベスト外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)			
嚔下障害外来		下山 (予約)					
神経難病外来		下山			足立芳樹		
筋ジストロフィー専門外来					下山 (予約)		
その他	セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

診療時間 8:30～17:15 受付時間 8:30～11:30
自動再来受付 7:30～11:00



独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター
呼吸器病センター
〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
電話 (0852) 21-6131(代)
医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
医療連携室 F A X (0852) 24-7661

小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンドオピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。